



安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	腸内細菌遺伝子検出キット -蛍光検出-
製品コード	FIK-301
会社名	東洋紡株式会社
住所	大阪市北区堂島浜二丁目2番8号
担当部門	ライフサイエンス事業部
電話番号	06-6348-3786
FAX番号	06-6348-3833
推奨用途及び使用上の制限	PCRによる遺伝子検出（研究用試薬）

2. 危険有害性の要約

重要危険有害性 有害性	通常の状態では人の健康に対する有害な影響は小さいが、有害性の調査が十分ではないので、取扱いには注意する。
GHS分類 物理的・化学的危険性 人健康有害性 環境有害性	分類基準に該当しない 分類できない 分類できない

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物	
化学特性	酵素、基質等の水溶液	
パーツ名	主要成分	CAS No. (EC No.)
PCR Master Mix	トリス（ヒドロキシメチル）アミノメタン	77-86-1
	デオキシアデノシン三リン酸	1927-31-7
	デオキシシチジン三リン酸	102783-51-7
	デオキシグアノシン三リン酸	93919-41-6
	デオキシウリジン三リン酸	102814-08-4
	1,3-プロパンジオール	504-63-2
	ポリ（オキシエチレン）=ノニルフェニル=エーテル	9016-45-9
	EvaGreen® dye	—
	DNAポリメラーゼ	(EC 2.7.7.7)
	タンパク質（マウスモノクローナル抗体）	—
	グリセロール	56-81-5
UNG(Uracil-DNA Glycosylase)	UNG(ウラシルDNAグリコシラーゼ)	59088-21-0
	エチレンジアミン四酢酸二ナトリウム	139-33-3
	グリセロール	56-81-5
10×Primer Mix	デオキシリボ核酸	—
	トリス（ヒドロキシメチル）アミノメタン	77-86-1
	エチレンジアミン四酢酸二ナトリウム	139-33-3

危険有害成分

化学名又は一般名	1,3-プロパンジオール	ポリ（オキシエチレン） =ノニルフェニル= エーテル
別名	トリメチレングリコー ル	ノニデットP-40
含まれるパーツと含有量	PCR Master Mix 7.5%	PCR Master Mix 0.01%
化学特性（化学式）	HOCH ₂ CH ₂ CH ₂ OH	HO(C ₂ H ₄ O) _n -C ₆ H ₄ -C ₉ H ₁₉
CAS番号	504-63-2	9016-45-9
官報公示整理番号	2-234	7-172
化審法： 安衛法：	公表	公表



安全データシート

3. 組成、成分情報(続き)

危険有害成分

化学名又は一般名

別名

含まれるパーツと含有量

化学特性

CAS番号

官報公示整理番号 化審法：

安衛法：

エチレンジアミン四酢

酸二ナトリウム

EDTA・2Na

UNG

0.1-1%

10×Primer Mix

0.03%

$C_{10}H_{14}N_2O_8Na_2$

139-33-3

2-1265

2-4-116

グリセロール

グリセリン

PCR Master Mix

2.5%

UNG

5-10%

$CH_2OHCHOHCH_2OH$

56-81-5

2-242

公表

4. 応急措置

吸入した場合

直ちに新鮮な空気のある場所に移し、気分が悪くなった場合は医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合

多量の水で十分洗い流す。

眼に入った場合

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受ける。

飲み込んだ場合

意識のある場合には、水で口の中を洗浄し、速やかに医師の手当てを受ける。無理に吐かせない。意識のない場合には、口から何も与えてはならないし、吐かせようとしてもいけない。

5. 火災時の措置

消火剤

水、二酸化炭素、泡消火剤、粉末消火剤。

消火を行う者の保護

消火は風上から行う。

大規模な火災の場合は呼吸用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項

作業を行う際は保護具を着用し、眼・皮膚への接触や吸入を避けるように注意する。

環境に対する注意事項

直接河川など環境中に放出しない。

除去方法

可能な限り、減圧で吸引したり、ウェスなどに吸収させて密閉式の空容器に回収し、その後、大量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

人体への接触を避けるよう十分に配慮する。

注意事項

眼、皮膚、衣服への接触を避け、取扱い後は充分洗浄する。

安全取扱い注意事項

取扱い場所を常に整理整頓し、清潔に保つ。

保管

適切な保管条件

密閉容器にて $-20 \pm 5^{\circ}C$ で保管する。

安全な容器包装材料

直射日光、強酸化剤、還元剤の接触を避ける。

本製品に使用されている容器内で保管する。



安全データシート

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度

日本産業衛生学会勧告値
ACGIH TLV
OSHA PEL

1,3-プロパンジオール

設定されていない
設定されていない
設定されていない

グリセロール
(ミスト)

設定されていない
10mg/m³
total dust :
15mg/m³TWA
respirable fr. :
5mg/m³TWA

ポリ(オキシエチレン)
=ノニルフェニル=
エーテル

設定されていない
設定されていない
設定されていない

保護具

呼吸器の保護具
手の保護具
眼の保護具
皮膚及び身体の保護具

必要に応じてマスクを着用する。
ゴム手袋を着用する。
保護眼鏡を着用する。
必要に応じて保護着等を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状
色、臭い

常温で液体、-15℃以下では固体。
UNG、10×Primer Mixは無色透明。PCR Master Mixは、黄色から橙色。
全てのパーツでほとんど無臭。

pH
引火点

6.0~9.0

水溶液のため引火性はないと考えられるが、PCR Master Mixは水分蒸
発後131℃の引火点を持つ1,3-プロパンジオールが残留する。また、
UNGは水分蒸発後160℃の引火点を持つグリセロールが残留する。

爆発特性
比重
溶解性

常温では爆発性なし。

1.0-1.2

水に可溶。

10. 安定性及び反応性

安定性
反応性
避けるべき条件
危険有害な分解生成物

-20±5℃で安定である。
通常の条件下では安定である。
高温、直射日光、火災などによる強熱、強酸化剤、還元剤
知見なし

11. 有害性情報

急性毒性
局所効果
各成分の有害性情報

データなし。
眼や皮膚の粘膜を刺激し、結膜炎などの炎症を起こす可能性がある。

急性毒性(LD50)

1,3-プロパンジオール

マウス経口 :
4773mg/kg

グリセロール

マウス経口:4090mg/kg
ラット経口:12.6g/kg

ポリ(オキシエチレン)
=ノニルフェニル=
エーテル

エチレンオキシドの付
加モル数により、毒性
値が著しく異なる。
1300mg/kg(付加モル数
10の場合)、
>15900mg/kg(付加モル
数20の場合)。

発癌性

日本産業衛生学会
IARC
ACGIH

記載なし
記載なし
記載なし

記載なし
記載なし
記載なし

記載なし
記載なし
記載なし



安全データシート

12. 環境影響情報

移動性
残留性・分解性

水溶性あり、水系に拡散する。
データなし。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理委託することが好ましい。本製品の低濃度廃水は活性汚泥処理を行うことができる。焼却する場合には、焼却設備により大気汚染防止法令等に従い、おがくずなどに吸収させて焼却炉で少しずつ焼却する。

汚染容器・包装

その施設・地域の廃棄規則に準じて廃棄する。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上

非危険物

航空

非危険物

国内規則

陸上

非危険物

海上

非危険物

航空

非危険物

輸送の特定の安全対策及び条件

運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15. 適用法令

輸送に関する法規制は、14. 輸送上の注意の項参照。

	1,3-プロパンジオール	グリセロール	ポリ(オキシエチレン)ニルフェニルエーテル
化審法	—	—	優先評価化学物質(旧)第3種監視化学物質
消防法	危険物第4類引火性液体第3石油類水溶性液体	危険物第4類引火性液体第3石油類水溶性液体	非該当
海洋汚染防止法	非該当	非該当	有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1)<1% 非該当
化学物質管理促進法 指定化学物質(政令番号)	該当しない	該当しない	
労働安全衛生法 通知対象物(政令番号)	該当しない	該当しない	該当しない
毒物劇物取締法 毒物・劇物(政令番号)	該当しない	該当しない	該当しない

16. その他の情報

参考文献

厚生労働省 職場のあんぜんサイト <http://anzeninfo.mhlw.go.jp/>
NITE: 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 <http://www.nite.go.jp/>
記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、注意事項は通常の実施を前提としたものであるため、特別の実施をする場合は用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。記載内容は情報提供を主目的とするものであって、保証するものではありません。

制約事項